

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 23 日現在

機関番号：10101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2015

課題番号：26570022

研究課題名(和文)近代中国(中華民国期)のマスツーリズムに関するメディア社会文化史的研究

研究課題名(英文)A Media-Socio-Cultural Historical Study on the Mass Tourism in Modern China, the Republican Era

研究代表者

清水 賢一郎 (SHIMIZU, Kenichiro)

北海道大学・大学院メディア・コミュニケーション研究院・准教授

研究者番号：90262097

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は中華民国期の上海を中心に続々と出現した「旅行団体」の記録を対象に、近代中国におけるマスツーリズムの成立展開過程を跡づけ、メディア社会文化史の視点からその歴史的意義を明らかにしようとする基礎的研究である。

具体的な成果として、(1)『申報』所載の「中国旅行社」「友声旅行団」「良友全国撮影旅行団」等の旅行社・旅行団体の関連記事目録を作成した。(2)友声旅行団の機関誌『友声』(上海図書館蔵分の1923年1期～37年21巻4期；番号多数)の記事目録を作成した。

研究成果の概要(英文)：The research is a fundamental study on the history of the mass tourism in modern China, the Republican Era, focusing on the historical records and archives left by lots of tourist parties, clubs and associations around Shanghai. The research traced the process of birth and development of these associations, and also made an exploration into the significance of their activities from the viewpoint of media-socio-cultural history.

The following are main research products: (1) A compiled list of Shenbao's news articles about tourist clubs and associations, such as China Travel Service, Yousheng Lüxing Tuan (or the Voices of Friends Tourist Club), etc.; (2) A general catalog of contents of Yousheng Magazine, the official organ of Yousheng Lüxing Tuan (collection in the Shanghai Library, Vol.1 of 1923 - Vol.21, No.4 of 1937; including many missing issues).

研究分野：観光のメディア社会文化史(東アジア)

キーワード：ツーリズム 中国 中華民国 メディア 団体旅行 旅行社

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究環境の整備 リプリント版の刊行とアーカイブズ(档案)の開放

近年、中国の改革開放政策により、中華民国期の新聞・雑誌の影印(リプリント)が急速に進んだ。中国史上最初で最大のツーリズム専門誌『旅行雑誌』(全 321 号)の影印版も 2009 年に刊行され、『旅行雑誌』の発行元である中国旅行社のアーカイブズ(档案)総計 855 巻も上海市档案馆で公開利用が可能となっている。また、当時上海最大のグラビア誌『良友画報』も「良友撮影旅行団」を組織して中国各地を周遊、風景・風物を紹介するフォト・エッセイの連載が人気を博したが、それも影印版が利用可能になっている。

(2) 中国近代ツーリズム研究の必要性

上記のように研究環境は整いつつあるが、近代中国のツーリズムに関する研究は、いまだほぼ空白のままである。特にその社会的文脈を形成した歴史的プロセスとその意義に関する基礎的な実証研究は非常に不足しているのが現状である。

そうした現状に対し筆者は、中国近代ツーリズム研究に一石を投ずべく、2010~2011 年度に科研費(挑戦的萌芽・22652068)を得て中国旅行社及び『旅行雑誌』の基礎研究に着手した。『旅行雑誌』影印版を入手し、上海市档案馆において中国旅行社関係の基礎資料を閲覧収集することができた。本研究はそれをさらに拡大発展させ、中国旅行社の動向のみに限らず、民国期の上海を中心に雨後の筍の如く簇生した数多の「旅行団体」によって展開された、近代中国におけるマスツーリズムの歴史的軌跡を明らかにするための基礎研究を進めることを目指した。

2. 研究の目的

本研究は、中国最初の近代的旅行者「中国旅行社」とその機関誌『旅行雑誌』をはじめ、上海随一の日刊紙『申報』やグラビア誌『良友画報』等に掲載された「良友撮影旅行団」や「友声旅行団」「萍蹤旅行団」「経済旅行社」「大陸旅行社」等、中華民国期の上海を中心に続々と出現した「旅行団体」や旅行社による旅行記録を対象として、メディア社会文化史の視点から、近代中国における大衆的なマスツーリズムの成立展開過程、歴史的

意義等についてモノグラフを作成しようとする基礎的研究である。

これにより、従来ほぼ空白のまま残されてきた近代中国ツーリズム史を切り拓き、日本の観光学研究に新たな学術的蓄積をもたらさう。また、欧米中心に進められてきた観光・ツーリズム研究の分野に東アジアの視座に立った社会文化史的アプローチによって介入し、メディア文化論的観点から光を当てなおすことによって新たな知見を加え、『東アジアツーリズム研究』への転回を促すことも目指す。

3. 研究の方法

本研究は雑誌・新聞資料と档案資料(アーカイブズ)とを一次資料とする実証的基礎研究であり、研究目的達成のため、2 年間の短期集中型の研究計画を採用した。その方法は概略以下のとおりである。

初年度は主な研究対象となる『良友画報』や『友声』等の影印版を入手し、研究協力者の支援のもと、それらの記事目録を作成しながら内容分析を進めた。同時に、上海市档案馆所蔵の「中国旅行社档案」や上海図書館所蔵資料についても、同じく研究協力者の補助を得ながら集中的に閲覧・収集し、上海を中心とするマスツーリズム発展の歴史的アウトラインを、大まかにであるにせよトレースした。

第 2 年度(=最終年度)は、上海だけでなく北京、台北にまで資料調査地を拡げ、初年度に収集した文献資料の分析を引き続き行いながら、研究発表を行い、そこで議論を踏まえて研究の理論的精緻化をはかった。

4. 研究成果

(1) 『申報』及び『良友画報』のマスツーリズム関係記事目録の作成

『申報』及び『良友画報』を主たる対象に、中華民国期の団体旅行に関する資料収集を行った。その際、当初計画では『良友画報』『申報索引』を購入して研究を進める予定であったが、利便性を考慮して方針変更し、国内他大学所蔵の資料を活用する方式に切り換えた。特に『申報』に関しては電子版(データベース)を利用することによって非常に効率的に検索閲覧を進めることができた。その結果、「友声旅行団」を中心とする中華民

国期のマスツーリズムを推進した旅行団体に関する『申報』の記事目録を作成することができた。また、『良友画報』についても「良友全国撮影旅行団」をはじめとする団体旅行や観光関連記事の目録を作成し内容分析を行った。今後はウェブ媒体に載せるなどのかたちで公開し、研究インフラの充実に資するようする予定である。

(2) 友声旅行団機関誌『友声』目次総目録(初稿)の作成

上海図書館及び上海市档案馆にて「友声旅行団」「萍蹤旅行団」「経済旅行社」「大陸旅行社」等、中華民国期の旅行社・旅行団体に関する資料を閲覧収集した。

特に「友声旅行団」関係の文献を集中的に収集し、機関誌『友声』は上海図書館蔵分(1923年1期~37年21巻4期)について記事目録を作成した。これにより日本では閲覧機会の得られなかった友声旅行団に関する諸資料を入手でき、研究が大きく進展した。

ただし、缺号やページの脱漏、不鮮明な箇所が多数あり、現時点では残念ながら完全なものを完成させるまでには至っていないが、これにより研究上の利便性は大幅に向上した。目次総目録は印刷物またはウェブ掲載のかたちで発表し、一般の利用に供する予定である。なお、友声旅行団に関しては、存在は知られていながら未入手の資料も多く、その補充は今後の課題である。

(3) 中国旅行社に関する未発見資料の発掘確認

第2年度に新たに台北で文献調査を行うことができたことにより、民国期中国のツーリズムの中核になった中国旅行社の実質的な親会社である上海商業儲蓄銀行の「行史館」を参観し、情報収集を行うことができた。さらに文献調査を進めた結果、特に中国旅行社の戦後における台湾での活動の展開について従来ベールに包まれたままであった未発見資料を幾つか発掘確認することができたことは特筆に値する成果である。こうして収集のなった資料について調査分析を行った結果は、中間報告的に中国文学文化研究者の研究集会にて口頭発表を行った(2015年9月14日)。今後(平成28年度中に)論文にまとめ、成果発表を行う予定である。

(4) 近代中国マスツーリズムの流れの大きな書き換え

2014年12月富山大学人文学部で開催された公開シンポジウム「中華圏におけるモダニズム——近代中国の都市とリゾート」において「モダン中国・マスツーリズムの出現」と題する招待講演を行った。報告では、中国において1900年代から新式学堂の設立とともに修学の旅が始まり、1920年代に入るやミッション系の宗教団体等を中心に民間組織による団体旅行が登場、さらに30年代以降に新聞雑誌メディアに媒介されたマスツーリズムが盛行していった歴史的展開について近代中国文化史研究の専門家と議論し、ピアレビューを受けることで今後の研究の方向性と留意点を、より明確につかむことができた。

中でも重要な論点として、これまで既往研究において、近代中国におけるツーリズムの歴史の大きな書き換えにつながる発見がある。

従来の研究では、1923年成立の上海商業儲蓄銀行旅行部を前身とし27年に独立した中国旅行社が圧倒的な中心として記述され、それ以外の民間の社團は、友声旅行団が多少知られている以外、ほとんど名前の列挙ないしは数行の記述で済まされる程度であった。その記述も、中国旅行社の誕生によって旅行業が活況を呈し始め、その後続く形で民間の旅行団体も活躍し始めた、といったストーリー展開が中心である。

しかし、本研究によって、事実はかなり様相を異にすることが明らかになった。むしろ1915年の『青年雑誌』(翌年『新青年』と改題)とほぼ時を同じくして誕生した民間のサークルが、ある種の社会運動(国民国家的な政治=経済主体の形成をも含む)と文化娯楽活動(「生活」領域の価値観をも含む)とを同時追求する形で、いわば物質的欲求と精神的欲望との相即的実現を夢想しながら

旅行を楽しむ始めており、中国旅行社はその流れをうまくつかみ、事業を拡大していった、というのが実相と見られる。近代中国ツーリズム史の流れを、いわばトップダウン型からボトムアップ型へと書き換えることにつながる観点として、今後さらに詳細な検討を加えることが求められる。

(5) 新たな要調査対象の浮上と今後の課題・展望

上記(4)と関連し、新たな進展として、資料調査の過程で、従来ほぼ全く注目されてこなかった「倭徳儲蓄会」の旅行活動の重要性が浮上したことが挙げられる。これは近代的大衆観光の嚆矢とされる英国トマス・クック社にも通じる、倫理道徳と旅行娯楽との一見奇妙な結びつきを示唆する事例であり、今後さらなる調査研究を進め、近代という時代におけるマスツーリズム流行の意味を問い直し、その歴史文化的構造を解明していく予定である。

また、今後の課題として、中華民国期の旅行ガイドブック集成『民國旅遊指南彙刊』が北海道大学附属図書館に架蔵されたため、今後その分析も加えられればと考えている。

さらに、昨年度(平成27年度)より、満洲におけるツーリズムの歴史的展開に関する研究グループにも加入し、目下、その資料収集と分析、論文執筆も進めている。中華民国期のマスツーリズムを、単に中国「一國史」の枠組みだけでなく、日本や朝鮮、台湾といった東アジア全域に目配りしながら、それら多地域間のインタラクション 移動と越境 のパースペクティブにおいて捉え直していくことで、『東アジアメディアツーリズム研究 East Asian Media-Tourism Study』への転回を推進していくことが今後の課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計2件)

清水賢一郎、近代中国におけるマスツーリズムの形成、藤井省三先生退休記念論文集刊行委員会第2回ワークショップ、2015年9月14日、北海道大学メディア・コミュニケーション研究院(北海道・札幌市)

清水賢一郎、モダン中国・マスツーリズムの出現、公開シンポジウム「中華圏におけるモダニズム 近代中国の都市とリゾート」、2014年12月7日、富山大学人文学部(富山県・富山市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

清水 賢一郎 (SHIMIZU, Kenichiro)

北海道大学・大学院メディア・コミュニケーション研究院・准教授
研究者番号：90262097

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

日野杉 匡大 (HINOSUGI, Tadahiro)